

アメリカ短期看護研修を終えて

鳴海クリニック 前田 恵里佳

医療制度の大きく違うアメリカと日本ではどのような医療や看護の違いがあるのかを知りたいという興味から、今回のアメリカ短期看護研修に参加することを決めました。

アメリカは日本と医療制度が異なり医療費が高額なため、来院した時は重傷化していることが多いことや、早期退院を臨む人が多いと聞きました。アメリカの保険は日本みたいに国民皆保険がなく、公的医療保険は国民全員が受けられるものではないため、保険は個人購入や会社でまかなっていると知りました。また、保険会社によって受けられる病院やケアが決まっているため、保険が適応しない病院があることに驚きました。改めて日本の医療制度の充実さを感じました。

アメリカの看護で気になったことは全体的に分業化が目立っていたことです。例えば、採血は臨床検査技師が、静脈留置は IV 専門チームが、ベッドメイキングやシーツ交換は清掃業者が、バイタルサイン測定・食事介助・清拭などのケアは看護助手が、体位交換は体位交換チームが行っていたりと助けてくれる人が多いと知りました。他にも呼吸療法士が気管内挿管やレスピレーターの設定、抜管ができることなど日本では医師しかできないことでもできることが多くありました。そのため看護師の仕事にあてる時間が多いと思いました。また、部署にはトリアージという電話相談を受ける部屋があり、患者が何か症状があるけどどうしたらよいかわからない時に電話相談ができるというシステムがありました。看護師の判断で薬の説明ができたり、受診する必要性を電話で相談できるので看護師のアセスメント力の高さが求められると感じました。

また、アメリカの看護師は学生の時から実際の臨床に出た時を想定した演習をたくさんするので、慣れた状態で臨床へ出ることですぐに実践に活かせる状態になっているということに驚きました。見学させてもらったポートランド大学では、シミュレーションルームという部屋で実際の臨床を想定した実技演習が頻繁に行われていました。ハイファイマネキンという話すこと以外全てプログラミングされている人形を無線 LAN を使用して演習したり、トレーニングを受けた俳優がシナリオに忠実に演技をして演習をしているのを見学させてもらいました。学生自身がどう行動すべきか、何が問題点であるかを自分で考えて行動する訓練をしていると聞き、教育レベルの高さを実感しました。実際の臨床で起こること全てを学生のうちにするというのを聞いて、学生のうちからプロとしての意識も育つのではないかと思います。

今回の研修で様々な病院や施設の見学・レクチャーを通し、自分の看護をもっと磨いていきたいなとモチベーションが上がった大変いい機会になりました。

アメリカ短期看護研修を終えて

鳴海クリニック 前田 恵里佳